イタリアワインの輸出額、8月までの減少率は3%に縮小

8月のイタリアワイン出荷額は5.1%増。米国向け輸出は21.1%急増し、最大市場での減少幅が縮小

2026年11月16日（月）



WineNewsがイタリア国家統計局（Istat）のデータを分析したところ、2026年8月までのイタリアワイン輸出額は前年を下回ったものの、複数の主要市場で販売が改善し、減少幅は縮小した。

2026年1～8月のイタリアワイン輸出額は48億5,000万ユーロで、2025年の同期間比3%減となった。年初からの減少幅と比べると縮小している。分析によると、7月までの輸出額は5.3%減、2026年上半期は6.2%減だった。WineNewsが引用したIstatの発表には輸出量の数値が含まれていないため、報告された増減は輸出額を指す。

8月には、改善を示すより明確な兆しが見られた。2026年8月のイタリアワインの世界向け輸出額

は5億680万ユーロで、2025年8月比5.1%増となった。単月の増加で年初来の減少分を取り戻すには至らなかったものの、差は縮まり、上半期の低調な動きの後、夏の終わりに需要が強まったことを示唆している。

イタリアワイン最大の海外市場である米国では、月次で特に力強い回復が見られた。2026年8月の米国向け輸出額は前年同月比21.1%増の1億1,210万ユーロで、2025年8月の9,250万ユーロから増加した。2026年1〜8月の米国向け輸出額は11億ユーロに達した。前年同期比ではなお8.3%減だったが、7月までの11.2%減から改善した。

イタリアワインにとって欧州最大の市場であるドイツも、販売額は依然として2025年の水準を下回っているものの、年初と比べて回復傾向を示した。2026年1〜8月のドイツ向け輸出額は7億140万ユーロで、5.5%減だった。同期間の英国向け輸出額は4億7,910万ユーロで、こちらも5.5%減となり、7月までの6.3%減から改善した。

その他の既存市場では、前年を下回る状況が続いた。カナダ向け輸出額は2億6,580万ユーロで6.1%減。フランス向けは3%減の2億330万ユーロ、オランダ向けは2.3%減の1億5,920万ユーロだった。WineNewsの分析によると、スウェーデン向けは1億2,650万ユーロとおおむね横ばいで、わずかな増加を記録した。

アジアでは、日本向けが2025年の水準に迫った。2026年8月までのイタリアワインの日本向け輸出額は1億2,080万ユーロで、1.2%減だった。中国向けは勢いを増し、輸出額は21.7%増の5,100万ユーロ超となった。WineNewsによると、主にイタリア産スパークリングワインにけん引された好調な傾向が続いている。

ロシアも大幅な伸びを示した市場の一つだった。2026年1〜8月のロシア向け輸出額は1億4,060万ユーロで、前年同期比24.2%増となった。この増加は、多くの伝統的な輸出先で販売が軟調となるなか、際立つ結果だった。

データからは、月を追うごとに数値が改善している一方、イタリアのワイン業界が依然として厳しい国際市場に直面していることがうかがえる。2026年8月までの年初来累計では、輸出先上位3カ国の米国、ドイツ、英国はいずれも2025年の実績を下回ったが、各市場とも今年のそれ以前の集計よりは改善した。

ワインはイタリアにとって重要な農産・食品輸出品の一つであり、これらの市場での需要の変化は、生産者、瓶詰め業者、輸出業者に大きな影響を及ぼす。最新の数値が示しているのは、全面的な回復ではなく、減少ペースの鈍化だ。それでも、上半期から8月の数値にかけて改善したことは、夏場の販売増が損失の抑制に寄与したことを示している。とりわけ米国では、8月の前年同月比が大幅な増加となった。

入手可能なIstatの数値には輸出量が含まれていないため、変化が出荷数量、価格、商品構成のどれによるものかは分からない。しかし、金額ベースで見ると、2026年8月までの傾向は明らかだ。2025年と比べて市場は依然として低調だが、主要な輸出先のいくつかで実績が改善し、中国ではスパークリングワインが販売を押し上げたことで、減少幅は縮小した。